

“賞与を含め賃金引き上げには慎重な見通し 人手不足を反映し「雇用確保・定着」に向けた賃上げが増加” ～令和2年「賃金改定に関する経営者意識調査」結果～

当所が、市内約450社余りを対象に実施した「賃金改定に関する経営者意識調査」(調査期間：令和2年1月7日～1月24日、回収率49.1%)の結果がまとまり、最近の賃金関係の動向もあわせて、2月19日に朱鷺メッセにおいて賃金関係説明会を開催しました。調査結果の概要は次の通りです。(詳細等については当所経営相談課まで)

1. 賃金改定見通しについて

「賃金引き上げを検討する」とした回答が74.4%(前年比▲3.2)と減少し、また、「改定しない」との回答が22.8%(前年比+1.0)と昨年同様の割合となったことから、賃金引き上げには慎重な姿勢が窺える。引上げ率は「1.5%程度」が中心。(図1参照)

2. 人件費負担対策として最も重視する要素について(複数回答有り)

「省力化」が19.1%(前年比+5.8)と増加している。また、「人員削減」と「パートタイマーへの切り替え」を合わせると13.8%(前年比+5.8)となり人員調整を図る割合が増加している。(図2参照)

3. 賃金改定において最も重視すること(複数回答有り)

「企業業績」が39.5%(前年比▲3.1)、「雇用の確保と定着」が28.8%(前年比+1.7)、「世間相場」が12.8%(前年比▲0.2)との回答結果となり、業績を考慮しつつも雇用も確保していかなければならない状況にある企業が多いことが窺われる。(図3参照)

4. 現時点における令和2年の一時金(賞与)の支給の見通しについて

引き上げを検討する割合が11.4%(前年比▲10.9)と減少し、「据え置く」と「未定」で78.5%を占めた。一時金については昨年(「据え置く」と「未定」で72.6%)と比較して慎重な企業が多くなっている。

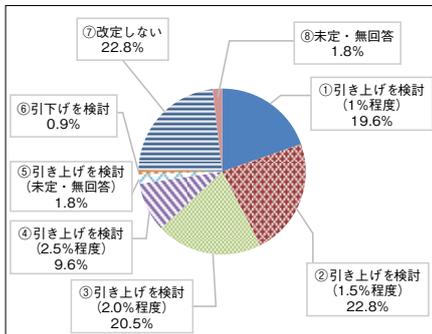


図1 令和2年の賃金改定見通しについて

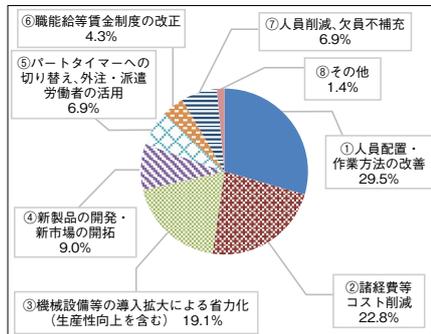


図2 人件費負担対策として最も重視する要素について

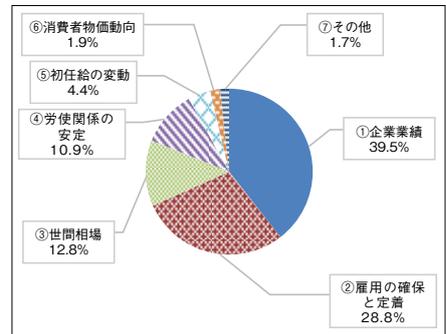


図3 賃金改定において最も重視すること

モノづくり支援セミナー

～工業部会(小田嶋壽信部会長)～
2月6日(参加者63名)

【テーマ1】では(株)オプティム 代表取締役社長 菅谷俊二氏が「第4次産業革命は日本の地方から始まる」と題して講演し、「今後は、AI・IoTサービスを作る時代から使う時代となり、地方では労働者不足の解決になる」と強調しました。

【テーマ2】では新潟大学地域創生推進機構 特任教授 深谷清之氏が「医工連携事業のメリット・デメリットと注意点」と題して講演し、「地域活性化、若者雇用等の課題解決や医学部・病院の課題も併せて解決する“win win”の関係を構築し、地域の諸団体と連携しながら医療関連製品の開発、上市(新製品が市場に出回る)を目指す」と説明しました。

佐渡汽船ジェットフォイルドック見学会

～輸送部会(高橋哲哉部会長)～
2月12日(参加者17名)

佐渡汽船シップメンテナンス(株) 取締役船舶整備部長 天野明彦氏を講師に講演会兼視察見学会を開催しました。

天野氏は、ジェットフォイルの整備内容や浮上する仕組み、船体などについて解説し、特に船体の姿勢制御に使用されるシステムは航空機並みの品質であるため非常に高価であると説明しました。

また、講演後には、実際にドック内で行われている整備の様子や、普段はなかなか見ることが出来ない水中翼や操縦席を見学しました。



メンタルヘルス不調者への適切な対応を学ぶセミナー

2月4日(参加者36名)

当所では経営者・人事労務担当者に向けて職場のメンタルヘルス不調者の早期発見と対応策についてセミナーを行いました。

セミナーでは、ストレスチェック制度の活用やヒアリングを用いてメンタルヘルス不調者の早期発見に繋げることの重要性や業務内外に分けた対応の仕方について事例を交えながら解説しました。

受講者からは「実例を交えた具体的な説明でイメージしやすい」、「就業規則の見直しの必要性を感じた」等の感想が寄せられました。



新潟空港活性化セミナーを開催

2月4日(参加者130名)

新潟空港の活性化を考えるセミナーを新潟経済同友会と共催で開催しました。第1部では「地方空港におけるビジネスジェットの可能性」と題して、静岡エアコミュニティ(株) 代表取締役社長 米原慎一氏が、同社の取組概要や企業チャーターの実際の運行例を交えて話し、新潟空港での運行の可能性は大いにであると訴えました。

第2部では「地方ネットワーク航空(LCC) TOKIプロジェクト」と題して、新潟県新潟空港活性化アドバイザー 長谷川政樹氏が、小型プロペラ機を保有し、新潟空港と地方拠点都市の空港とを結ぶ航空運行会社の設立に向けた計画概要を話しました。



環境・エネルギー視察見学会

2月5日(参加者43名)

にいがた市民環境会議環境配慮推進活動部会との共催による視察見学会を実施しました。「大河津資料館」では、大河津分水の歴史や仕組みのほか、昨年10月の台風19号での様子についてお聞きし、改めて分水路の重要性を実感しました。新潟市のごみ処理施設「新田清掃センター」には、市内最大級の焼却施設と破砕施設が併設され、実際にクレーンがごみを攪拌している様子などを見学しました。担当者からは、ごみ処理の過程やエネルギーの循環利用等について説明を受け、参加者は活発な質疑応答を通して、理解を深めていました。



「恋活♡和菓子作りと芸妓の舞」で素敵な出会いを!

2月8日(参加者30名)

独身男女に出会いの場を提供する恋活イベントを開催しました(新潟県「あなたの婚活」応援プロジェクト補助事業)。イベントの前半では(株)丸屋本店の職人から和菓子作りを教わり、繊細な作業に苦戦しながらも、参加者の皆さんは和気あいあいと、春らしい華やかな和菓子作りを体験しました。後半には、古町芸妓の踊りを鑑賞した後、懇親会を行いました。芸妓さんにも会話を盛り上げてもらい、参加者の皆さんはリラックスしながらコミュニケーションを楽しんでいました。



「ICT」を活用した経営・課題解決の事例セミナー

2月13日(出席者25名)

G-word(グッドワード)代表で(一社)日本情報技術協会認定AIプロデューサーの杉山貴思氏を講師に、ICTの利活用をテーマとしたセミナーを開催しました。

杉山氏は、AIに置き換えが可能な業務や産業別のICT活用法などの事例を挙げて社会情勢の変化について説明。まずは社内連絡手段のレベルアップやキャッシュレス決済の導入といった身近な取組から始めて、時代の動きに対応していくことが、事業を伸ばしていく上で重要であると語りました。



全国商工会議所観光振興大会2020in金沢

～観光業部会(星野佳人部会長)～

2月13～14日(参加者10名)

初日の全体交流会では、金沢芸妓による素囃子のおもてなしの後、参加者同士での交流を深めました。2日目の全体会議では、商工会議所における観光振興の取組の説明や事例発表の後、「観光振興に求められる、守るチカラと創るチカラ」というテーマで(株)加賀屋相談役の小田禎彦氏による講演があり、創業当時から大切にしているおもてなしや、未来を見据えた持続可能な観光のあり方などについて解説されました。また、観光地視察では、金沢市内の工芸体験や、富山県黒部市にある産業観光の先進施設「YKKセンターパーク」を見学しました。

